

〔事業者の理念・方針、期待する職員像：小規模保育事業〕

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	1)すべての人に愛情をもって接します。 2)子どもの最善の利益を追求し、保護者の子育てと仕事の両立支援を貫きます。 3)すべてのものを敬い、謙虚さと感謝を忘れません。 4)常に向上心・探求心・学ぶ姿勢を持ち、学ぶことを考えることを怠りません。 5)人には誠を尽くします。そこから信頼が生まれます。ご縁のあるすべての人に誠に尽くします。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割
	・職場内の人間関係において協調性、協力的態度を持つ。・保育士としての使命感、責任感を持つ。 ・心身共に健康である。・愛と思いやりを持つ。・乳幼児を理解し、保育技術を高める。
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）
	・スマイル…いつも明るい笑顔で対応。 ・スピーディ…テキパキと敏速な行動。 ・スマート…清潔な身だしなみ、スマートなサービス、整理整頓。 ・シンセリティ…心のこもった誠意ある対応、誠意、熱意、好意を持つ。 ・スタディ…豊かな知識、自分から積極的に学ぼうとする意欲。

〔利用者調査：小規模保育事業〕

調査対象	保護者17世帯	
調査方法	保護者には、保育園より調査の趣旨を説明いただきアンケート用紙を配布いただき、評価機関へ直接返信いただきました。	
	利用者総数	17
	利用者家族総数（世帯）	17
	共通評価項目による調査対象者数	17
	共通評価項目による調査の有効回答者数	12
	利用者総数に対する回答者割合（％）	70.6％

利用者調査全体のコメント

保育園に対する総合的な満足度は全回答者12名のうち「大変満足」と回答した方が9名、「満足」と回答した方が2名、「どちらともいえない」と回答した方が1名でした。「大変満足」「満足」と回答した方が9割を超えており、満足度は非常に高いと言えます。「子育ての小さなことも含めて、相談しやすく助かっています」「外国人ですが、言葉や文化もよくわかりませんが、いつも保育園の先生たちから丁寧に説明を受けています」「いつも先生たちは熱心だし、親切にしてくださっています」といった好意的な意見がほとんどで、満足度の高さがうかがえます。

利用者調査結果

コメント欄を必ず入力してください

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	12	0	0	0
回答者12名全員が「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っている」と回答しています。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	12	0	0	0
回答者12名全員が「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっている」と回答しています。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	9	2	0	1
全回答者12名のうち「提供される食事は、子どもの状況に配慮されている」と回答した方が9名、「どちらともいえない」と回答した方が2名、「非該当」と回答した方が1名でした。				

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	11	1	0	0
全回答者12名のうち「保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっている」と回答した方が11名、「どちらともいえない」と回答した方が1名でした。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	10	0	0	2
全回答者12名のうち「保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されている」と回答した方が10名、「非該当」と回答した方が2名でした。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	11	0	0	1
全回答者12名のうち「安全対策が十分取られている」と回答した方が11名、「非該当」と回答した方が1名でした。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	10	1	0	1
全回答者12名のうち「行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分」と回答した方が10名、「どちらともいえない」と回答した方が1名、「いいえ」と回答した方が1名でした。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	11	1	0	0
全回答者12名のうち「子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係がある」と回答した方が11名、「どちらともいえない」と回答した方が1名でした。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	10	0	0	2
全回答者12名のうち「施設内の清掃、整理整頓は行き届いている」と回答した方が10名、「非該当」と回答した方が1名、「無回答」の方が1名でした。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	11	0	0	1
全回答者12名のうち「職員の接遇・態度は適切」と回答した方が11名、「無回答」の方が1名でした。				
11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	10	0	0	2
全回答者12名のうち「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できる」と回答した方が10名、「非該当」と回答した方が1名、「無回答」の方が1名でした。				

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	6	0	0	6
全回答者12名のうち「子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できる」と回答した方が6名、「非該当」と回答した方が3名、「無回答」の方が3名でした。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	11	1	0	0
全回答者12名のうち「子どもの気持ちを尊重した対応がされている」と回答した方が11名、「どちらともいえない」と回答した方が1名でした。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	10	0	0	2
全回答者12名のうち「子どもと保護者のプライバシーは守られている」と回答した方が10名、「非該当」と回答した方が1名、「無回答」の方が1名でした。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	10	1	0	1
全回答者12名のうち「保育内容に関する職員の説明はわかりやすい」と回答した方が10名、「どちらともいえない」と回答した方が1名、「非該当」と回答した方が1名でした。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	9	1	0	2
全回答者12名のうち「利用者の不満や要望は対応されている」と回答した方が9名、「どちらともいえない」と回答した方が1名、「非該当」と回答した方が2名でした。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	4	2	5	1
全回答者12名のうち「外部の苦情窓口にも相談できることを伝えられている」と回答した方が4名、「どちらともいえない」と回答した方が2名、「非該当」と回答した方が5名、「無回答」の方が1名でした。				

〔組織マネジメント：小規模保育事業〕

Ⅰ 組織マネジメント項目（カテゴリ－１～５、７）

No	共通評価項目		
1	カテゴリ－１		
	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ－１（１－１）		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
	評価項目１		
	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している ()		評点
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目２		
	経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事務所をリードしている ()		評点
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目３		
	重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している ()		評点
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当	

カテゴリー 1 の講評

カテゴリー 1 の講評を入力してください

●子どもも職員も「すべての人の幸せ」を願う理念の実現に向けた行動が展開されています

法人の理念は「すべての人の幸せを願って最善の利益を追求します。輝く瞳・溢れる笑顔 Happy smile Thank you smile Everybody smile」と示されており、冒頭の「すべて」には、保育園を利用する子どもはもちろんのこと、保護者、そして保育に関わる全関係者として、職員も含まれています。園長は、法人理念の周知にとどまらず、その意味することの具体的な行動として、職員との面談の機会においても、職員自身が仕事もプライベートも含めて幸せでいるかという点を大切に、具現化に努めています。

●園長会議での決定事項の共有を通じて、園長の役割と責任、園の方向性を周知しています

園長の役割は、職務分担表に業務内容として明記されています。その業務内容の中でも「理事会決定事項の執行」「園の経営管理」が園の運営に大きく関わる内容になっています。具体的な内容については、法人本部が主催する園長会において決定され、法人全体、全事業所で共有されることになります。各事業書においては、職員会議を通じ、法人としての取組及び園長の業務について、方向性や具体的な業務内容が示されています。また、業務内容に関する実施状況等は、口頭の説明だけでなく、管理システムで職員が共有できるように整備が進んでいます。

●より良い保育を目指す現場のニーズを迅速に実現につなげる意思決定の仕組みがあります

事業所での重要な案件の決定については、本部での決裁の手順が定められています。本部の決裁が必要となる案件の重要度については、月に10万円までという基準が設定されています。最近の事例では、英語プログラムの導入に際しての手続きがありました。現場においては、保育内容の充実と園児募集に当たって近隣保育所との差別化を目的としたプログラム拡充についてのニーズがあり、本部、理事長に対する説明を経て決裁となり、導入が決定しました。これら一連の経緯については、保護者にも説明があり、新しいプログラムも混乱なく導入できました。

2

カテゴリー 2

事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

サブカテゴリー 1（2-1）

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況

評価項目 1

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

評点（ ）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリー 2 (2-2)

実践的な計画策定に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

評価項目 1

事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している
()

評点

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当

評価項目 2

着実な計画の実行に取り組んでいる
()

評点

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた、計画の推進方法（体制、職員の役割や活動内容など）、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

カテゴリー 2 の講評

カテゴリー 2 の講評を入力してください

●保護者からの意向・意見も情報共有システムによりリアルタイムに把握しています

事業所では、効率的な運営を進める目的で、法人内、事業所内、保護者間においてシステム導入を図っています。保護者に提供しているシステムは、保護者に対する情報発信、保護者間との情報共有を目的としています。このシステムにより、通常の連絡事項の他、要望やクレーム等を随時受けることができるため、保護者からは、思い立ったときに発信できる手段として、有効に利用されています。また、職員に対しては、業務管理システムにより、個別の要望等を受けることが可能であり、さらに毎年1月にも個別の職員面談により意向等を確認しています。

●小規模保育事業所連絡会では、地域の課題等を共有した意見交換の場になっています

地域におけるニーズや情報収集については、行政からの情報が多くあります。内容も専門性が高く、運営に反映されているものもあります。また、区内小規模保育事業者連絡会にも参加しており、地域の課題等について、情報共有できる機会になっています。現在、連絡会においては、地域における共通する課題として、園児の減少による定員割れの問題、外国人の受け入れ対応への課題等が挙げられています。これらの課題等は、現在園でも課題となっているため、他事業所も含めた多様な意見を交えて、解決にむけた意見交換や協議等ができる機会になっています。

●地域における事業所の現状の分析を行った上で、単年度事業計画を策定しています

事業所では、法人の基本理念の実現に向けた短期・中期ビジョンが地区毎に設定されています。さらに、これを基本に単年度事業計画が策定されています。事業計画の策定に当たっては、地域における事業所を取り巻く「機会」「脅威」「強み」「弱み」を分析し、現実に即した事業計画に落とし込んでいます。「機会」では職員の離職がなく、安定していることを示した一方、「脅威」では、同じ職員が長期間仕事をともにすることで、考え方等が同じ基準、同じ価値観になりやすいことが示されており、同じ状況を表裏で観察する視点が活かされています。

3	カテゴリー 3		
	経営における社会的責任		
	サブカテゴリー 1 (3-1)		
	社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
	評価項目 1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる ()		評点
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
	●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
	サブカテゴリー 2 (3-2)		
	利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
	評価項目 1 利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている ()		評点
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
	評価項目 2 虐待に対し組織的な防振対策と対応している ()		評点
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当	
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当	
サブカテゴリー 3 (3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
評価項目 1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる ()		評点	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当	

評価項目 2		評点
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている ()		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク（事業者連絡会、施設長会など）に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリー 3 の講評 カテゴリー 3 の講評を入力してください		
●規則・規律を整備するに止まらず、いかに現場の実践につなげるかを重視しています 保育に関わる職員としての法・規範等の遵守事項は、就業規則、服務規律規定等に示されています。また、これらの規則、規定等に示された内容については、区が提供する「保育実践振り返りシート」による実施確認を行うことで、現場における取組み状況が把握できるようになっています。この「保育実践振り返りシート」では、子どもに対する取組内容、保護者に対する取組内容等、対象項目が区分されており、それぞれに対し取組みが不足している項目や理解が難しい項目についても把握できるため、改善に向けて必要となる取組みが確認できます。 ●園児を守る視点が現場に根差すよう、虐待防止の仕組みづくりに取り組んでいます 虐待防止に対する園の考え方は、入園時に提示される重要事項説明書に記載されています。ここでは、家族の養育に関する場合も、虐待の疑いがある場合には関係機関、区への通報する旨が明記されています。また、保育業務内における虐待行為については「足立区教育・保育の質ガイドライン」に示されており、この内容に基づいた虐待防止の取組を行っています。さらに、その実施内容については、「保育実践振り返りシート」に虐待行為の確認、虐待等の早期発見等の項目に分類されており、項目別に取り組状況を確認できるようになっています。 ●小さなことでも地域に貢献できることを届ける姿勢で、園の情報発信を続けています 園では、実習生や職業体験の学生の受入れなど、地域での関係づくりに積極的な姿勢で取り組んでいます。園児募集についても、園のホームページやブログの他、園の窓にも掲示することで、実際の問い合わせにつながっています。また、見学者の対応では、子どもに関する相談に至ることもあり、実際に入園につながらない場合でも、地域の子育てに貢献しています。さらに、小規模保育事業者連絡会では、連携園とともに職員研修を開催し、連絡帳の書き方等、日々の業務に身近なテーマを通じて学ぶことで相互の理解が深まる機会になっています。		

4	カテゴリー 4		
	リスクマネジメント		
	サブカテゴリー 1 (4-1)		
	リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
	評価項目 1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点 ()		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
	●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
	○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	○非該当
	○あり ●なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
	●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
	サブカテゴリー 2 (4-2)		
	事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
	評価項目 1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点 ()		
	評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当	
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当	
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当	

カテゴリー4の講評		カテゴリー4の講評を入力してください		
●発生時の想定をしながら、より安全に命を守る姿勢で危機管理に取り組んでいます リスクの優先順位では、感染性対策が最優先と位置付けられており、実施にあたっては保護者への情報提供含め、積極的に取り組んでいます。また、他のリスクとして、園の立地的に海拔が低いこともあり、津波、洪水への対策も優先順位が高くなっています。この地域では、近隣に高台の避難場所がないために、近所のマンションオーナーと交渉し、そのマンションの2Fに避難場所を確保しています。また、災害後の事業継続計画の策定が今後の予定になっているため、事業再開の条件等とその確保に向けた手順を定め、早期の計画策定が望まれます。 ●情報共有から、効果的な再発防止に向けた取り組みが推進される仕組みがあります 実際の事故発生時の対応については、事故対応マニュアル等に定められた手順における、報告、要因分析、再発防止策の策定が実施されます。これらの内容については、運営管理システムの「リスクマネジメント」に設定された項目に入力することで、法人本部、園長、職員との情報共有が行えることで、再発防止につなげます。また、通院する必要のない軽度の転倒等の場合には、ヒヤリハットノートに記録し、1か月等の単位で取りまとめ、頻度の多い場所や内容に対して、分析、対策を講じる手順で対応し、事故を未然に防ぐ仕組みづくりを進めています。 ●情報管理・保護と業務効率化の双方に配慮し、運営管理システムを活用しています 園における情報管理の対象として、園児や保護者に関する情報と職員に関する情報が位置づけられます。法人として、これらの情報は園の運営管理システムにより管理されています。このシステムは、クラウドシステムであるためパソコンにはデータが保存されずネット経由されたサーバに保存されるため、パソコン自体の管理よりも、システム利用のアカウント管理に重点がおかれています。アカウントには園長業務専用の園長アカウント、また、職務の権限に応じて利用できる機能が限定された、アクセス制限された職員アカウントが定められています。				
5	カテゴリー 5			
	職員と組織の能力向上			
	サブカテゴリー 1 (5 - 1)			
	事業所が目指している経営・サービスを実現する 人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	
	評価項目 1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている ()			評点
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
	評価項目 2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している ()			評点
	評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）が職員に分かりやすく周知されている		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当	

評価項目 3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる ()		評点
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成（研修）計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目 4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる ()		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇（賃金、昇進・昇格等）・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど）を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリー 2（5－2）		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
評価項目 1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる ()		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリー 5 の講評		カテゴリー 5 の講評を入力してください
7	●職員である前に、一人の人間であることを受け止め、そこに関わる育成を進めています 園長は、職員の主体性を育むために、仕事だけでなく、職員の人生全体を含め、相談やキャリア育成の機会を作ってきました。職員一人ひとりを一個人として尊重し、一人ひとりの意見に耳を傾け、受け入れることを続けてきました。そのために、園長は積極的な声掛けを行ってきました。園長は、経験から話すよりも、職員の意志や気持ちを大事に扱ってきました。全職員に同じように接する中で、信頼関係も育まれ、意見の出しやすい雰囲気も醸成されたと考えられます。このようなメンバーの構成により、勤続年数も長く、働きやすい職場になっています。 ●主体性を持つ職員が同じ思いで行動することで、より強いチームワークが発揮されます 現場のスペースも狭く、職員数も少ないことから、職員間のコミュニケーションを密にしていけることにより、強いチームワークが生まれました。一人ひとりの職員が、尊重され受け容れられていること、それぞれ主体性を持った職員で構成されていることが、強いチームワークの土台になっています。有給休暇の取得の優先順位もメンバー間で設定し、日付指定の行事等は最優先というルールが運用されています。また、行事等の終了後に開催する懇親会も参加しやすさを考慮し、事業所内で開催しています。このような配慮も強いチームワークの秘訣と言えます。 ●経営的な課題も職員が我が事のように捉え、活動することが課題解決につながっています 園では、園児が定員に満たない状況が継続しており、経営的な課題にもなっていました。扱う範囲が広く、大きな経営的な課題については、本部の指示に従うことが多くありましたが、選ばれる園になるためには、現場の意見が大切であるという視点から、職員からの提案を積極的に受け入れています。その結果、新たなプログラムへの取組が始まりました。ひとつは赤ちゃん体操で、身体能力の向上を目指しました。また、系列園で実績のあった、英語プログラムの導入についても、職員が主体的になって行動し、人気プログラムとして提供できるようになりました。	
	カテゴリー 7	
	事業所の重要課題に対する組織的な活動	
	サブカテゴリー 1 (7-1)	
	事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
	評価項目 1	
	事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている (その 1)	
	前年度の重要課題に対する組織的な活動 (評価機関によるまとめ)	
	前年度の重要課題として、職員の育成、スキルアップが挙げられていました。ここで言う、職員の育成は、既存の保育の枠で定義する専門性だけではない、新しい考え方に対応できる職員としています。子育ての環境を見ても、従来の教科書にあったような前提ではない、状況にも広く対応することが求められています。外国人が増えたことによる、言葉、文化の違いを含めた対応、多様な価値観の下で求められる対応、また、継続するコロナ禍における対応等、教科書で覚えておけば大丈夫という類の課題ではなくなっています。このような傾向は、今後も継続することが予想されるため、幅が広く、新しい課題にも対応していける、柔軟性がありかつ視野の広い職員の育成が求められています。これに対し、園では、園内研修、円外研修の受講を積極的に進めました。受講後は、単に報告ではなく、経験のある職員と経験の少ない職員間で意見交換を行い、双方のとらえ方の違い、考え方の違い、そこから想定される行動の違い等、受講でインプットされたことを、自らの言葉でアウトプットし、さらにその内容が価値観や立場の違いによりどのようにとらえられるのかといった幅広い認識を意識できる機会になりました。	
	目標の設定と取り組み	●具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○具体的な目標が設定されていなかった
	取り組みの検証	●目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった (目標設定を行っていなかった場合も含む) ○設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
	検証結果の反映	●次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目 1 で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

全ての職員が、多様な課題、考え方があることを知り、また、ひとつの問題に対しても、多くの要因があることに配慮できる考え方ができるようになりました。このような取組を通じて、新しい課題を見つけ取り組む姿勢が醸成されてきています。具体的には、保育という範囲で園児に対する支援だけでなく、園児を中心に考えた場合、過ごす時間が最も多い保護者に対する支援という視点も併せて考えていく必要があるという意見が出てきており、広い視野と積極的な姿勢が感じられました。課題という見方をすると、従来よりも幅が広く、専門外のスキルが必要となる場合があるにも関わらず、園児、保護者の幸せを願う視点からは、むしろ解決が近くなったような面もあり、さらに職員のモチベーションの向上にもつながっていると考えられます。

評価項目 2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

園では、定員割れとなり、経営的な課題にもなっている。今後もさらなる少子化で、子どもの絶対数が減少していく状況で、園児を確保していくために、従来とは異なる取組を実施しました。まず、情報発信を増やすことに注力し、ホームページがブログ等で園の取組内容や行事等の内容で頻繁に更新しました。また、園の玄関に掲示するポスターも作成し、駅前を通る人へのアピールができるようにしました。ポスター掲示と併せて、見学も随時対応できる体制を整え、職員間でも挨拶等の対応について話し合いました。また、外国人からの問い合わせが増えているため、外国人の受け入れも可能であることを発信しています。

目標の設定と
取り組み

- 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む）
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目 2 で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

園の存在を発信していく手段を増やすということ、他園との違いを明確にすることとして新たな保育メニューの導入、園の規模や施設環境から遊具や設備を増やすことは難しいためハード面ではなく、ソフト面での違いを打ち出す方向しか選択肢はありませんでした。外国人の園児が増えていく状況で、外国語に対する対応等、コミュニケーション上の課題はもちろんのこと、文化、慣習の違い等想定していなかった対応を求められることもあり、課題は尽きない状況ですが、そのことひとつひとつが経験となり、外国人対応のノウハウ構築に繋がっています。このような運営、対応のノウハウが集積することで、園の強みとしてアピールできることも可能になると考えられます。

〔サービス分析：小規模保育事業〕

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No	共通評価項目		
1	サブカテゴリー1		
	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している ()		評点
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
	サブカテゴリー1の講評		サブカテゴリー1の講評を入力してください
	●ホームページには利用希望者が知りたい情報が満載です ホームページには、園内の設備の写真、基本情報、園の概要、入園時に必要な書類、定員数と職員数、年間行事予定表、年齢ごとのプログラム（1日の流れ）など園を知る必要な情報が公開されています。また、重要事項説明書もアップされており、運営方針や年齢ごとの保育目標、給食について、衛生管理・感染症対策や虐待防止についてなどについて説明がされています。さらに、ほぼ毎日、園の活動状況のブログもあり写真が中心となっています。これから利用をしようと思っている方にとっては、通園後のイメージがしやすいように工夫されています。 ●事業所独自のチラシも作成し、広報を進めています 自法人のホームページや区のホームページ、さらにはブログなど園の情報は広く公開がされています。さらにパンフレットも用意されていますが、より園の活動をわかりやすく、まとめられたチラシも製作しています。行事の様子や園独自の取り組みである「ソダツラボ」英語リトミックや赤ちゃん体操、ごっこ遊びの様子や食事のメニューがA4版の用紙にコンパクトにまとめられています。当園は、地下鉄の高架下であり、メトログループのホームページでも紹介されています。園のチラシは、建物の入り口に掲示され、ウエルカムな雰囲気があります。 ●ホームページからの問い合わせも多くあります 問い合わせは、区の所管課を通してというのがほとんどですが、ホームページからの問い合わせも多くあるようです。また、園の正面のガラス窓にはかわいらしいイラストで飾られており、さらにはチラシも掲示されているため、通りがかりで園に問い合わせをする方もいるようです。コロナ前までは数名の見学者を受け入れていましたが、現在は1対1での対応としています。限られたスペースのため玄関先での対応となってしまうため、遠目での確認になってしまいますが、職員の子どもに接している姿をよく見てもらうようにしています。		

2	サブカテゴリー2		
	サービスの開始・終了時の対応		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
	評価項目1		
	サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている ()		評点
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
	●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
	●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
	評価項目2		
	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている ()		評点
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリー2の講評			サブカテゴリー2の講評を入力してください
●入園決定後に面接をしながら、重要事項に基づいて丁寧に説明をしています 入園の決定の連絡が区から届いた後、入園に必要な書類を郵送して事前に記入をしてもらいます。健康診断の記録も必要なため、クリニックなども紹介しています。面接は園長と担任で行い重要事項説明書をもとに丁寧に説明をしています。重要事項説明書はホームページでも公開されており、事前に確認することもできます。また、アレルギーを持つ子どもには、アレルギー一覧表をもって説明をして確認をしています。当日に得られた子どもや保護者の情報は、管理システムにある園児台帳に担任が入力をして、職員間の共有を図っています。 ●慣らし保育にはじっくりと時間をかけて行い、保育士との関わりを大切にしています 保護者の職場復帰の時期を考慮しながら、子ども一人ひとりの状況に応じて慣らし保育を実施しています。利用開始から3日間程度は、9:00～11:00までの利用とし、4日目からは給食を食べるまで2日間程度、その後は午睡まで過ごすという風に、慌てることなく保育士がじっくりと関わりながら子どもとの関係性を育んでいきます。また、アレルギーの有無などを確認するため、1歳半まで月齢に応じて食べたことのある食材をチェックしてもらう食材チェック一覧表を配布し、子どもの健康状態の把握もしています。 ●3歳児から利用する保育園についての相談もきめ細かく受け入れています 小規模保育園の利用対象児童は0～2歳児のため、3歳児以降の受け入れ先を保護者は探す必要があります。区内の小規模保育園はいずれかの認可保育園と連携することが定められています。法人内にも認可保育園がありますが、位置的に離れているため、当園でも近隣の認可保育園と連携しており小規模保育園からの相談などに対応してもらっています。2歳児の夏くらいには、区からの認可保育園への申込書を希望する保護者に配布しています。また、新しい保育園の入園には保護者の不安もあり、当園では丁寧に相談に応じています。			

3	サブカテゴリー 3		
	個別状況の記録と計画策定		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
	評価項目 1 定められた手順に従ってアセスメント（情報収集、分析および課題設定）を行い、 子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点 ()		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
	●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
	評価項目 2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点 ()		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している	○非該当
	●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況（年齢・発達の状況など）に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
	●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
	○あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	○非該当
	評価項目 3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点 ()		
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当	
評価項目 4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有している 評点 ()			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当	

サブカテゴリー 3 の講評		サブカテゴリー 3 の講評を入力してください		
●一人ひとりの指導計画を作成して、定期的に評価を行っています 発達の状況や家庭の状況を把握して、個別の指導計画を作成しています。指導計画の作成には、年齢に応じたモデルがあり子どものねらい、配慮を加味して、担任が作成し、園長が最終的に確認をしています。計画に対する評価は毎月行い、活動項目ができたときの月齢を記入していきます。子どもの状況に応じて計画の見直しも行われています。また、5領域に渡って年間計画も作成されており、0歳児は1年をかけて目標とした活動が達成されることとしています。園だよりには年齢ごとのその月のねらいが記載されており、ホームページでも閲覧することができます。 ●「できない」のではなく、どうしたら「できるか」を全体で考えて取り組んでいます 子どもたちの発達を促すため、年齢に合わせた行事を取り入れています。その中で「できない」ではなく、どうしたら「できるか」を職員全員で考え、活動に取り組んでいることが、子どもへの質の高い発達を促しているものと思われます。指導計画の内容はすべて管理システムで管理されています。日々の活動と計画の整合性については個人発達記録、ケア記録で確認ができるようシステム化されており、子どもの発達状況の推移を確認することができます。保育日誌には活動した内容や、食事、薬、検温や排泄の状況などが記録されています。 ●連絡アプリで保護者との連携も深めています 保護者との子どもの状況の共有は、連絡アプリを介して行われています。保護者から毎日、子どもの様子や熱、睡眠時間や排泄の状況、夕食・朝食などの情報提供があり、保護者送迎備忘録に落とし込まれ職員が確認をしています。また、保護者から園へのメッセージがあった場合には、主に担任が対応をしています。管理システムを介して職員間の情報共有は行われていますが、さらに月に1度職員会議を設けて、子どもの状況を話し合い情報交換を行っています。				
5	サブカテゴリー 5			
	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	
	評価項目 1			
	子どものプライバシー保護を徹底している		評点	
	()			
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
	●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当	
	評価項目 2			
	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点	
()				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当		
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当		
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当		

サブカテゴリー 5 の講評		サブカテゴリー 5 の講評を入力してください	
●たくさんの写真の掲載は肖像権の同意書をとっています ブログは、日々更新されており写真を中心に掲載されています。子どもたちの日々の様子がよくわかり、保護者からも好評を得ています。入園時の説明では、写真の掲載についても保護者に丁寧に説明をして、肖像権の同意書をもって確認を得ています。法人のホームページでもプライバシーが掲載されており、個人情報の管理、個人情報の利用目的、個人情報の第三者への開示・提供の禁止などについて明確に示されています。また、情報の管理はほとんどパソコンで行われているため、非常に高いセキュリティが施されています。 ●子どもを褒めることでできることを増やしています おもつを取り替えるときには、パーテーションで区切り、着替えやトイレを使用するときには、裸にならないよう羞恥心には配慮をしています。また、個性を尊重し、その子どもにあった声掛けを行い、みんなで歌を歌うときには、歌詞の中で一人ひとりの名前を呼ぶなどしています。服装の乱れなどには、注意をはらうよう促しています。例えば、靴下に足を入れるまでその流れを見守りながら、はき方を教え、手伝うとだんだんできるようになります。はけたときには、思い切りほめると子どもも嬉しくなり、他のことにも積極的に取り組むようになります。 ●不適切な指導にならないよう、ガイドラインのチェックリストを確認しています 最近、子どもへの不適切な行為がクローズアップされていますが、日々とっている行動が虐待にあたるといったケースもあります。基本的には区のガイドラインに基づいて、園での保育が行われています。ガイドラインに沿った保育実践振り返りシートもあり、虐待についての振り返りシートを使用して確認をしています。また、園内の職員間の関係が非常に良好なために、お互いに注意喚起し合える雰囲気があります。着替えなどのときには子どもの身体をチェックして状態を確認しています。			
6	サブカテゴリー 6		
事業所業務の標準化		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
評価項目 1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点 ()			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目 2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点 ()			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	

●園独自のマニュアルを整備し、随時改訂が進められています

法人本部で作成されたマニュアルが整備されており、当初はそのマニュアルを使用していました。昨年度からより現場に沿ったマニュアルをということで、綾瀬マニュアルを作成しました。園長と主任がたたき台を作成して、職員が意見を出し合い作成しました。年齢ごとの発達マニュアル、デイリープログラムを時間ごとに何をするかそれに伴う留意点、行事にはどんな準備をするかなど、細部にわたり誰が見てもわかりやすく作り上げています。職員一人ひとりが気づいた点はすぐに更新されるシステムが、職員のスキルアップにつながっていくものと思われます。

●各シフトの分担表を作成し、役割分担も明確化されています

職員の勤務シフトは、早番と遅番に分かれています。それぞれで子どもに対する支援ではない、例えば、パソコンを起動して園児システム管理、キッズリー（保護者との連絡アプリ）の確認、捕食の準備など、シフトごとの職員が行う業務内容について明確に示されています。各シフト内容も職員からの声などで改訂がされています。また、新人職員に対しては、上記の綾瀬マニュアルでOJTを行っています。それぞれの、業務分担についても明確化されておりスムーズで、新人職員も現場で動きやすいものと思われます。

Ⅲ サービスの実施項目（カテゴリー 6-4）

サブカテゴリー 4			
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	
1	評価項目 1 子ども一人ひとりの発達状態に応じた保育を行っている ()		評点
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当
	●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当
	●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
	●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつきの等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当
評価項目 1 の講評		評価項目 1 の講評を入力してください	
●子どもの状況を把握しながら、穏やかに接し、育む保育に努めています 当園には保育用のソフトが完備されています。子どもの状態や活動は、担任や気が付いた職員が逐次入力しています。また、子ども一人ひとりの発達記録は1か月ごとチェックを行い、子どもの姿、保育の狙い、配慮する点などを更新して、最新の状況を把握しています。子どもが自ら自分を出せるように保育していくことを心掛けています。情緒の安定をはかり、基本的な信頼関係を築いていくなかで、自分を確認していくことを見守りながらプログラムにも関心を持つように、様々な工夫をしています。 ●言葉が異なってもお互い自然になじむことができるよう配慮しています 外国籍の子どもも保育園には数名通っています。子ども同士違和感なく、言葉や習慣などの違いを感じずに、一緒にいることが自然な状態になるよう見守っています。宗教的なタブーなどでの食生活の制限についても家族と協力し合いながら、それぞれの習慣を尊重して配慮しています。こういったきめ細かな配慮から、お互いが自然に接することができ、楽しく遊んでいるようで、訪問時にほほえましい光景にたくさん出会いました。 ●配慮が必要な子どもに応じた保育に努めています 特別に配慮が必要な子どもには、特性を把握しながらその子どもの状況に応じて個別に対応しています。例えば、1 回の声掛け理解が難しい場合には何度も話しかけ、言葉だけではわからない場合には、必要に応じて手を引いて導いてあげるなど、手助けをしています。子ども同士のけんがなどは、その場面に応じて注意をするだけでなく、お互い理由を確認しながら、それぞれの子どものお話を聞き取り、仲良くすることの大切さを教えています。			

2	評価項目 2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている ()			評点
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当	
	●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当	
	●あり ○なし	3. 休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当	
	●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当	
評価項目 2 の講評 評価項目 2 の講評を入力してください				
●登降園時での会話も保護者の様子や気持ちをくみとります コロナ禍で園内での様子がわからないこともあり、連絡ツールを使用して保護者との連絡を密にするように努めています。子どもの登降園時も保護者とコミュニケーションを交わす大切な時間です。会話に消極的な保護者もいるため、さり気なく声を掛けるようにしています。話したくない様子が見られた際には無理に聞き取ることはしませんが、保護者からの相談などがあれば、丁寧に対応をしています。 ●悩み事など保護者からの相談事には丁寧に対応をしています 園では登降園時だけではなく、7～8月にかけて保護者との個人面談を実施しています。意見や要望、質問ばかりではなく、子どもの様子を共有できる良い機会となっています。さらに、いつでも保護者からの希望があれば担任や園長とも話をする機会を提供しています。初めての子どもを持つ親にとっては、様々な悩みや不安を抱えている方もいます。オムツはずしの時期や方法、お箸の使い方、離乳食など初めての経験で悩みを抱える保護者に対しては、家庭での状況を聞き取り園での様子をみながら、適切にアドバイスをしています。 ●午睡は子どものペースに合わせた対応をしています 午睡の時間を定めてはいますが、眠れないまたは眠ろうとしない子どもに対しては職員が付添い、他の子どもたち起きないように絵本を読んだりし時間を過ごしています。午睡に関しては、保護者より要望を聞きますが、子どもの様子や前日・前夜の子どもの状況を見ながら判断をしています。また、当日の子どもの午睡時の過ごし方については担任や職員から遅出の職員に伝えて、保護者に降園時や連絡ツールで伝えています。				

3	評価項目 3		評点
	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している ()		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
	●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
	●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
	●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
	●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
	評価項目 3 の講評		評価項目 3 の講評を入力してください
●計画の狙いに沿いながら子どもたちの反応や環境の変化に合わせて活動しています その日の活動には、週案に盛り込んだ狙いに沿って一日の流れを決めています。また、子どもたちの反応や状況、天候などに合わせながら行います。例えば、室内での遊びの時間を天候によって紅葉を見に行くといった具合に臨機応変に対応しています。子どもたちの「やりたい」という希望もできる範囲の中で対応しています。 ●言葉、リズム、音感、手指を動かす感覚を養うことに計画的に取り組んでいます 「言葉」を子どもたちに理解してもらうために、例えば物を指してその名前を伝えていく、悲しい顔をしたら「悲しいのね」といったように言葉を使って伝えていくことを意識的に行っています。まだ成長の発達段階なので、園だけでなく家庭の実情も聞き取りながら、子どもの言葉への理解に対して保護者とも共通理解ができるようにしています。また、歌やピアノに合わせて跳んだり跳ねたりして、音感やリズム感を養っています。シール貼りで指を動かしていく、紙を千切ったり丸めたりして制作に繋げていくなど指先で感覚を養う保育も行っています。 ●公園や商店街の店先の品物をみて、季節感を育んでいます 近隣にある公園には天候が許す限り、出かけています。公園で柿のなっているところや落ち葉をみたり、商店街の八百屋さんの店先に出ている野菜や果物等を見て、季節感を育んでいます。園の周辺環境を活かし、四季を感じる機会を大切にしています。決まりごとについては、「玩具を持って平均台に登らないように」とか「絵本や玩具の上には乗らないように」といった社会のルールを根気強く話をして伝えていくようにしています。			

4	評価項目 4		評点
	日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している ()		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
	●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当	
		評価項目 4 の講評	評価項目 4 の講評を入力してください
●できるようになったことを子どもと一緒に楽しむことを行事の意義としています 園では毎月のように七夕やお月見など季節に合わせた行事を実施しています。しかし、行事のための練習ではなく、子どもができるようになったことを子どもと一緒に楽しんでいくといった趣旨としています。行事の日だけが行事ではなく、運動会ごっこなど、日常のごっこ遊びの中にもできるようになったことを組み込んでいます。今年はジャンプをすることができるようになったので、ジャンプする種目を取り入れていくといったように、子どもも自分の成果を誇らしく思えるよう、できるようになったことを尊重しています。 ●子どもが達成感を得られるよう、行事の準備から取り組んでいます 大きな行事としては夏祭り、運動会ごっこ、ハロウィーン、クリスマス会を実施しています。これらの行事を子どもと一緒に準備や進行に少しでも加わることによって、子ども自身が「やった!」という達成感につながるよう行事には取り組んでもらっています。準備の過程で運動会ごっこなら運動会の歌を唄ってみる、夏祭りなら絵本でお祭りのことを理解していくといったことと自分がかかわった、参加した、という感覚が重なるように、子ども自身が積極的にかかわったという気持ちをもてるよう、努めています。 ●準備段階からの様子をブログで保護者に伝えています 保護者に対しては行事の計画と共に予定をお知らせし、準備に取り組んでいる様子をホームページのブログで伝えています。コロナ禍で家族が準備段階からかわることは難しい状況ですが、これらの情報を通じて、子どもが成長していく姿を詳細につたえています。行事の後は、必ず行事担当の職員を中心として反省会を実施して、その結果をミーティングノートに記録して、次年度の参考としています。			

5	評価項目 5		評点
	保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている ()		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目 5 の講評		評価項目 5 の講評を入力してください	
●子どもが飽きないよう遊びにメリハリをつけています 保育時間は、7:30～18:30までです。そのうち17:30～18:30までを延長保育時間としています。現在18:30までの利用はほぼありませんが、保護者の急な残業など当日でも18:30までは受け入れをしています。自由遊びの時間として、自分で好きなものを選んで自由に遊べるように、遊んだことのないおもちゃでも遊ぶことができるようにしています。子どもが飽きないように遊びにメリハリをつけ工夫しています。 ●全職員が子どもたちのことを理解しているため、安心感を与えています クラス担当ではないけれど、全職員が子どもたち全員のことを理解し、子どもたちも職員のことにはわかっているようで違和感なく、安心して職員のことを受け入れることができているようです。延長保育の職員はシフト制のため、どの職員も担当することができます。さみしくなったときにはスキンシップを深めて対応をしています。			
6	評価項目 6		評点
	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している ()		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
	●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	○非該当	

●感染予防と共に、食事を美味しく、楽しく食べるための工夫を凝らしています

当園では食事の目標を「しっかりと食べる子」に育てるとして、見た目においしく、食べておいしい食事作りを心掛けています。食育の一環として子どもたちに示す献立も食品の名前がわかるように食材を掲示し、子どもの興味を引くために栄養士が職員と共に献立ボードの飾りも作っています。食べ始めは皆で「いただきます！」ですが、お代わりや食事終わりは自由にしています。向かい合う子どもには衝立を立てて感染防止などに気を配っています。

●季節に合わせた様々な食材を工夫した行事食を提供するようにしています

献立は栄養士が作成し、園長が承認をしています。薄味であり和食中心、旬の食材を使うことを心掛けています。季節の行事と合わせて、ハロウィーンにはかぼちゃの料理、節分には豆を使ったカレー、クリスマスにはご飯をケーキ風にしたり、チキンを取り入れたりと行事食が栄養士によって考えられ、提供されています。以前はお弁当を作って遠足や外で食事をする機会を作っていましたが、現在は中断をしています。離乳食にも対応をしています。

●アレルギー等に対する予防措置を講じ、食育にも力を入れていくようにしています

食物アレルギーのある子に対しては、医師の診断書をもとに保護者と話し合いをしています。未食の確認のために食材チェック表を作成して保護者に渡し、確認してもらいます。給食については期ごとや年間の反省を行い、次の機会に活かしていくように取り組んでいます。給食について、職員の感想や意見は喫食ノートに記載して、栄養士が確認をしています。食育の年間計画は栄養士と園長で作成を行い、例えば玉ねぎの皮むきといった食材に触れる機会を持ち、クッキングもできるようにしたいと考えています。

7	評価項目 7		評点
	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している ()		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
	●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	○非該当	
評価項目 7 の講評 評価項目 7 の講評を入力してください			
●園長以下職員全員で子どもの健康や安全管理に対して注意をはらっています 園長はじめ職員全員で子どもの健康に対して気を配っています。1歳児までの子どもには手洗い、2歳児からはうがいも加えて自分でできるように指示をしています。幹線由生坊として、家庭と園での検温を実施し、園内の各所や玩具の消毒も徹底しています。健康診断は年2回実施し、毎月の身体測定の結果も連絡ツールで保護者に伝えています。また、衛生管理として全職員が毎月の検便検査を実施しています。 ●健康に不安を抱える子どもについて保護者と連携しての対応を行うようにしています 熱性痙攣の子どものなかにはいますので、事前に保護者とその場合にはどう対応するかについて話し合いを行って、熱が出たら保護者に迎えに来てもらうようにしています。発熱がなくても体調不良が感じられる子どもについては、保護者と連絡を取り、子どもの様子を伝えて、保護者の仕事などにも配慮しながらも、どうするかについて話し合いや確認を行うようにしています。 ●AEDやSIDS対応センサーを導入し、急変事態の予防と対応の訓練も実施しています 急変については救急車での対応になりますが、その事態を想定しての訓練を実施しています。AED（自動体外式除細動器）も備えています。職員に対する救命救急講習については、コロナ禍で実施が難しい状況でしたが、今後受講を進めていく考えです。SIDS（乳幼児突然死症候群）への予防としてセンサーを導入していますが、それだけに頼るのではなく、必ず職員が定期的に子どもの睡眠状態の確認をして予防しています。			

8	評価項目 8		評点
	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている ()		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
	●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
	●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当	
評価項目 8 の講評 評価項目 8 の講評を入力してください			
●保護者の置かれている状況を把握しながら配慮をしています 保護者の状況については事前に聞き取ってはいますが、その後の状況などの変化については可能な限りさり気なく聞き取り、確認しています。勤務先に連絡をする場合が多いので、変更があれば必ず報告をしてもらうようお願いしています。また、保護者の状況に配慮しながら、連絡ツールを通じて保護者との連絡を密にするようにしています。 ●コロナ感染予防のため対面での家族との機会は限られますが、再開も視野に入れています 以前は保護者との個人面談とは別に年2回、クリスマスなどの行事の後にクラスに分かれて懇談会を実施していましたが、感染拡大のため中止せざるを得ない状況となっています。伝えなければならない事項については個別の面談時に伝えています。今後は状況を勘案しながら、懇談会を再開することも検討しています。 ●子どもものの様子を詳細に伝えることで、高い満足度を得ています コロナ禍のために家族との交流や園や子どもの様子を知らってもらう機会は制限をせざるを得ない状況になっています。登降園時での保護者の状況へ配慮しながらの呼びかけや対話の交流、連絡ツールやブログでの子どもの様子の紹介といった努力もあって、保護者へのアンケート結果での総合評価では90%以上の保護者から満足以上の回答があり、大変満足が多数を占める結果となっています。日々子どもの様子を伝えることに工夫を凝らしていることが実を結んでいます。			